

ブロッコリーの生産力向上に向けた取り組み

ねらい

ブロッコリーは、管内で生産振興している秋冬野菜の重要品目ですが、近年、高齢化による労働力減少や菜の花との競合によって栽培面積の維持・拡大が難しく、生産量が伸び悩んでいます。

そこで、生育時期に低温となる三好地域の不利な気象条件を逆に生かした「1カ所2本植え栽培」と「密植栽培」の試験検討を行い、反収の増加と所得の向上に努めました。

活動地域・対象

地域：三好市三野町

対象：JA阿波みよしブロッコリー部会

普及活動の目標

中山間地域に適した高収益多収モデルの確立

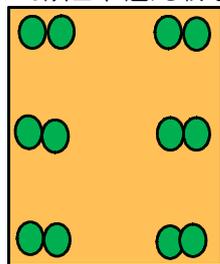
目標に向けた活動概要

○作型・品種構成の調査

主要生産者3名に、作型と品種について聞き取り調査を行いました。

○多収栽培の試験ほの設置

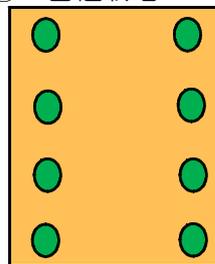
① 1カ所2本植え栽培



1カ所2本植え
施肥量：慣行区の約2倍

株間35cm

② 密植栽培



1カ所1本植え
施肥量：慣行区の約2倍

株間20cm

収量調査：収穫率（収穫本数/定植本数、花蕾13cmのLサイズを調査）と収量（慣行区と比較した倍率）の調査・検討を行いました。

○栽培講習会の開催

講習会を開催し、試験ほで実証された反収向上技術について周知しました。

普及活動の成果

○作型・品種構成の調査結果（管内の主力品種）

年内どりは“おはよう”5割、“はつみらい”3割、“SK-9”2割、厳寒期どりは“クリア”6割、“晩緑105”4割、春どりは“おはよう”8割であることが分かりました。

※品種は“おはよう”，作型は年内どりが最多となりました。

○試験ほの調査結果

両区とも厳寒期どり“クリア”の収穫率、収量が高い値となりました。

厳寒期どりは、寒い時期に生育するため生育速度が遅い作型です。そのため、隣株との競合が緩やかで花蕾の生育も揃っていました。また年内どり・春どりについては、生育期の気温

が高いため生育速度が速く、花蕾の肥大にばらつきが生じやすいことがわかりました。

両区ともに、農薬散布・追肥回数は慣行と同様のため、収量あたりの省力化と経費削減を図ることができました。しかし密植栽培に関して、定植の際に、定植機の株間を20cmに設定して畝を往復するため、慣行より作業コストがかかる結果となりました。

●これらの結果から、「厳寒期どり〃クリア〃1カ所2本植え栽培区」の普及を進めます。

表1. 収穫率(%) (R1~3年調査の平均)

作型/品種	慣行区	1カ所2本植え区	密植区
年内どり/SK-9・おはよう	94	68	78
厳寒期どり/クリア	98	80	94
春どり/おはよう	97	71	83



1カ所2本植え(収穫期)

表2. 収量(倍) (R1~3年の平均) ※慣行区をを1として比較

作型/品種	1カ所2本植え区	密植区
年内どり/SK-9・おはよう	1.36	1.42
厳寒期どり/クリア	1.59	1.51
春どり/おはよう	1.42	1.27

ブロッコリーの「1カ所2本植え栽培」にチャレンジしてみませんか？
1カ所2本植え栽培とは？

目的：単位面積あたりの収量を向上させること
栽培方法：
1. 畝幅を1.5mに狭くして2本植え。育苗する際、株間を慣行と同じく20cmに設定する。
(畝幅狭小化、育苗機利用、育苗30cm)
2. 定植後の管理についても慣行と同様の方法で行う。
3. 収穫は慣行と同様。

メリット
原因：土地利用率の向上
移動作業の負担
収量あたりの作業コスト削減

※注意
定植機に慣れが必要。収穫時期が異なる
収穫時期が異なる

実証展示圃(令和元年度~3年度)の収量(慣行区を1として比較)

作型	慣行区	1カ所2本植え区	密植区
年内どり	1.0	1.36	1.42
厳寒期どり	1.0	1.59	1.51
春どり	1.0	1.42	1.27

1カ所2本植えに適する作型・品種
栽培時期の目安
厳寒期どり/クリア
8月下旬~9月下旬 定植
10月上旬~10月中旬 定植
2月中旬~3月下旬 収穫

お問い合わせは、三好農業支援センター(0883-76-0696 近藤・山内)まで

○反収向上技術の周知

講習会で、1カ所2本植の技術を紹介するパンフレットを配布し、部会員に周知を行いました。

用語解説
年内どり：8月頃から播種し始め、8月下旬~10月中旬に定植、11月頃から収穫します。
厳寒期どり：9月頃に播種、10月中旬~11月中旬に定植、1~2月に収穫します。
春どり：1月頃から播種、2月~3月に定植、5月頃から収穫します。

今後の発展方向

○試験を重ねデータ集積することで、三好地域独自の栽培マニュアルの作成を進めていきます。
○マニュアルの活用により、部会全体への普及を推進して生産量を底上げし、産地の維持を目指して支援を続けていきます。

関係者からの声

生産者：厳寒期どり作型の1カ所2本植え栽培は、慣行区よりも反収が見込め、葉が過度に混み合わないので作業もしやすかったです。また収穫期間が1週間程度長くなるため、労働力の分散を図る上でのメリットも感じました。この技術を産地でも広げていきたいと思ひます。

三好農業支援センター

連絡先：徳島県三好市池田町マチ2415 tel : 0883-76-0691